

北海道高等学校文化連盟 第61回全道高等学校将棋選手権大会
兼 第61回全国高等学校将棋選手権大会北海道大会

実 施 要 領

1 競技日程

5月29日（木）	5月30日（金）
9:20 集合（開場は9時）	9:20 集合（開場は9時）
9:30～10:00 開会式	9:30～10:30 個人戦準々決勝
10:10～ 予選1回戦 女子1回戦	団体戦準決勝
11:00～ 予選2回戦 女子2回戦	10:40～11:50 個人戦準決勝
11:50～12:50 昼食	団体戦決勝
12:50～ 予選3回戦 女子3回戦	11:50～13:00 個人戦決勝・大盤解説
13:40～ 予選4回戦 女子4回戦	13:00～13:20 閉会式
14:30～ 決勝トーナメント1回戦 女子5回戦	
15:30～ 決勝トーナメント2回戦	
1日目（14:30～16:30） 交流対局・指導対局・級位認定大会	2日目（9:30～11:40） 交流対局・指導対局・級位認定大会

※ 最終日の手荷物は6F講堂に置いてください。貴重品の管理は各自でお願いします。

2 抽選とシードなど選手登録

- （1）選手番号抽選は専門委員立ち会いの下で事前に当番校事務局が責任を持ち行う。なお、抽選結果は大会開催時まで発表しない。
- （2）男子個人戦は同一校の生徒が予選で対局しないように設定する。
- （3）前年度全道高等学校将棋新人大会の優勝者、準優勝者が、個人戦に出場した場合はそれぞれ選手番号1番、2番としてシードする。
- （4）団体戦の対局は申込み時の同将同士とする。

※ オーダー変更は認められない。ただし申込み後、選手変更が認められた場合はこの限りではない。別紙開催要項「9 参加申込」参照

3 競技方法

- （1）対局は男女別団体戦・個人戦とし、男子団体戦・個人戦は、スイス式トーナメント予選4回戦の後、団体戦は上位8校または3勝以上のチーム、個人戦は上位32名による決勝トーナメントを行う。
- （2）女子団体戦・個人戦は出場校(者)数が6校(人)以下は総当たりリーグを、7校(人)以上はスイス式トーナメントを行う。なお、7人の場合は4回戦、8人以上の場合は5回戦とする。別紙「出場人数における対局回数設定についての細則」参照
- （3）スイス式トーナメントの順位決定方式
 - ・勝ち点が多い方が上位。
 - ・同じ勝ち点になったときには、以下のような優先順位で順位を決定する。
 - ① ブックホルツ…対戦相手の勝ち点の総和の多い方。
 - ② バーガー……勝った相手の勝ち点の総和の多い方。
 - ③ メディアン……対戦相手の成績上下を引いた残り2つの勝ち点の総和の多い方。
 - ④ 勝者数の多い方。（団体戦のみ。なお、不戦勝の場合は3人とも勝ちとみなす。）
 - ⑤ プロGRESS……各回戦の勝ち点の総和の多い方。
 - ⑥ 抽選番号（選手・学校番号）の小さい方を上位とする。

(4) 決勝トーナメントの対戦方式

団体戦（8校の場合）

1回戦 A：1位－8位、B：2位－7位、C：3位－6位、D：4位－5位

準決勝 E：Aの勝者－Dの勝者、F：Bの勝者－Cの勝者

決勝 G：Eの勝者－Fの勝者

個人戦 1回戦 A：1位－32位、B：2位－31位、……、P：16位－17位

※ 2回戦以降は団体戦に準ずる。

(5) 女子団体戦・個人戦の順位決定方式

・総当たりリーグの場合

① 勝ち数の多いものが上位。

② 直接対決の勝者。

③ 各選手個々の勝ち数合計（団体のみ）。

④ 上記で判断できない場合は、抽選とする。

・スイス式トーナメントの場合

①上記（3）と同等とする。

②その他、判断出来ない場合は北海道高等学校文化連盟将棋専門部対局設定についての細則により決定する。

(6) 対局後勝敗の報告について

対局カードに結果を記入し、個人戦は両対局者、団体戦は両校の主将の2人で大会本部に来て結果を報告する。

4 対局規定

(1) 対戦はすべて平手戦とする。

(2) 先後の決定は振り駒とする。

(3) 対局時計を使用し、その位置は後手番が決めることができる。

時計は指した方の手で押さなければならない。

(4) 持ち時間は、男子個人及び団体予選は各10分、男子個人及び団体決勝トーナメント並びに女子個人及び団体は各15分、使い切きると30秒未満の秒読みとする。

対局時計が0となった時点で負けとなる。

(5) 対戦相手に以下の行為があった場合は、反則勝ちとなる。時計を止めて、すみやかに審判に申し出ること。

① 禁じ手（二歩、打ち歩詰、行き所のない駒、成れない駒の成り等）

② 二手指し

③ 待った（駒から手を離したら、着手の変更はできない）

④ 対局中に他者からの助言等を受けること

⑤ その他の反則

※ 反則の指摘は、対局者のみが行える。（観戦者は指摘してはいけない）

※ 反則の指摘は、指した直後でなくても、盤面に残っている場合等（二歩、行き所のない駒など）は、行うことができる。

※ 投了後は、反則の指摘はできない。（投了の優先）

(6) 対局中に選手がスマートフォンやその他電子機器（通信機能のある腕時計等も含む）の類に触れていたことが認められた場合、電源の入切・使用内容を問わず当該選手を失格とする。この指摘は対局者ならびに審判のみが行うことができる。（ただし、参加申込書等で事前に申し出のあった医療機器を除く）

(7) 同一局面が4回出現した場合は千日手となる。時計を止めて、すみやかに審判長に申し出ること。残り時間はそのままに、先後交代して指し直す。2回連続で千日手になった場合は、抽選により勝者を決める。

(8) 双方入玉模様になった場合は、審判の判断で持将棋が成立する。27点法（大駒5点、小駒1点）で、点数の多い方を勝ちとする。ただし、同点の場合は後手番の勝ちとする。また、以下の『入玉将棋の宣言法』を用いても良い。

『入玉将棋の宣言法』

宣言しようとする側の手番で手を指さずに「宣言します」といい、時計を止めて対局を停止させ（秒読み中は、時間切れ前に宣言し、対局を停止する）、その時の局面が、次の条件を全て満たしていれば、宣言した側が勝ちとなる。

<条件1> 宣言側の玉が、敵陣三段目以内に入っている。

<条件2> 宣言側が（大駒5点、小駒1点の計算で）

・先手の場合、28点以上の持ち点がある。

・後手の場合、27点以上の持ち点がある。

ただし、点数の対象となるのは、玉を除く宣言側の持ち駒と敵陣三段目以内に存在する宣言側の駒のみである。

<条件3> 宣言側の敵陣三段目以内の駒は、玉を除いて10枚以上存在する。

<条件4> 宣言側の玉に、王手がかかっていない（詰めろや必死であるということとは関係ない）。

<条件5> 宣言側の持ち時間が残っている（切れ負けの場合）。

以上の内一つでも条件がそろっていなかった場合、宣言した方が負けとなる（したがって、宣言をもって対局が終わる）。もちろん宣言する前にどちらか片方が投了することは可能である。この規定はどんな持ち時間制度でも適用可能である。

(9) 対局マナーを守り、以下の行為は慎むこと。

- ① 対戦相手に迷惑となる行為
- ② 対局者への助言、また対局者に聞こえるような会話等
- ③ 対局中の飲食（水分補給は認める）
- ④ 対局中の私語
- ⑤ 対局場内で騒がしくすること など

(10) その他問題が生じた場合は、時計を止め、すみやかに審判に申し出、判定に従うこと。

(11) 選手の失格について

出場選手の電子機器使用に関する違反、ならびに出場資格に関する違反が判明認定された場合は、直ちに該当選手を失格とする。失格とは当該対局を負け、当該大会において以後の出場権利を失うものとする。